

農免道路に桜やヒガンバナなどを植栽しています

3月1日、「農免道路植栽協議会（根本利隆委員長）による久慈川沿いの農免道路へのヒガンバナやシモツケなどの植栽が行われました。参加したのは、地元の方をはじめとする約30人。約1.3キロメートルに渡って4種類の花木が植栽されました。この植栽は、「とうかい21世紀プラン」（東海村第4次総合計画）における久慈川河川敷周辺整備として、農免道路の植樹帯の整備が地区別計画の中の一つとして掲げられていたことにより、地元の方を中心に農免道路植栽協議会が充足行われてきたもの。平成18年度から3年間の計画の初年度は、豊岡・亀下地区の北側に約50本の桜（陽光・ヤマザクラ）が植えられました。

植栽に参加した方からは、「自分の植えた花が咲くのが楽しみ」農免道路にさまざまな花が植えられ、多くの方が歩くことで心身ともに健康でいられますように、などと希望と期待に満ちあふれた言葉が聞かれました。

●問合せ 経済
環境部経済課農
地保全担当 ☎282
局1711 内線
1434

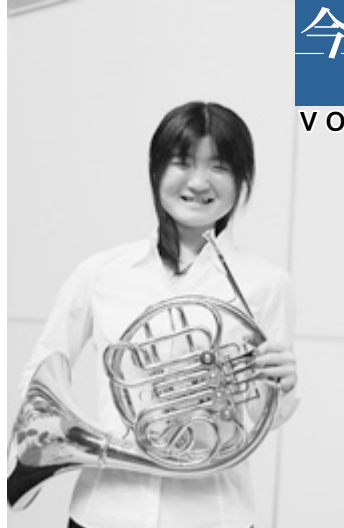


エッセー 頑張る

今どきの
青少年
VOL. 107

私にとっての音楽

水戸第二高等学校2年
船場 萩谷 優莉子



昨年の6月、私は東海村吹奏楽団に入団しました。この楽団に入団した理由は、進学した高校に吹奏楽部がなく、自分にとっての音楽の大切さに気付かされたからでした。

小学2年生の時に吹奏楽を始めて、それから中学3年生まで、当たり前のように朝や放課後に音楽室へ行き、楽器を吹く毎日を通して音楽の大切さに気付かされたからでした。新しい環境の中で生活していると、何かもの足りなさを感じるようになりました。それは「音楽」でした。もちろん、完全に音楽とのかかわりがなくなっただけではなかったし、「今までずっと打ち込んできたから残念だな」という気持ちも多々ありましたが、こんなにも音楽が好きだったとは、

自分でも驚いたほどでした。

そんな中で出会ったのが「東海村吹奏楽団」でした。最初は、周りがほとんど大人の方ということに緊張して不安でしたが、皆さん優しく、温かく迎えてくれ、そして何より皆さん一人ひとり、音楽が好きな人ばかりだということを感じました。それぞれ、住んでいる所、職業、年齢等、全く違いますが、音楽の好きな人が集まり世代を超えて協力し合い、音楽を楽しむ——これは小学校や中学校の部活では絶対に経験できなかったことだと思います。他にも楽団では学校の部活で学べないようなたくさんのお話を学ぶことができるように思います。先日行われた「東海村吹奏楽団第2回演奏会」でも、それに向けての練習、演出などの準備、財団の方々の協力などを通してたくさんのお話を学ぶことができました。

楽団に入ってもうすぐ一年。私はこのように音楽とかわかっていられることを幸せだと思っています。また、今まで何も言わずに吹奏楽を続けさせてくれた両親に感謝したいです。これからも聴く人に何かを与え、感じてもらえるような演奏を目指して頑張っていきたいです。また、ずっと楽器を続けるのは難しいと思いますが、音楽にもいろいろな形があるので、何らかの形で長く音楽とかわかっていきたいと思います。